

令和2年度 校内研修計画

I 研修の目的

1 目的

児童生徒のもっている力を伸ばし、授業改善を通して教師の指導力を上げる。

2 基本方針

- (1) 全員で、切磋琢磨して日々の授業改善に努める。
- (2) それぞれの知見や指導技術を共有し、お互いが学ぶ姿勢を大切にする。

II 研修主題

児童生徒が興味・関心をもって取り組む授業づくり

～目標設定と評価に焦点を当てて～

1 主題設定の理由

(1) 昨年度までの取組から

昨年度まで児童生徒の「主体性」と「自己有用感」をキーワードに、5年間「分かって動けて、かかわって」の校内研修テーマを掲げて取り組んできた。これまでの取り組みの成果から多くの知見が得られた。指導者である上越教育大学教授村中智彦氏からも大きな成果が上がっているとの評価をいただいた。(詳細は、前年度の研修冊子「みとくのエデュケーション」を参照)

今年度から新学習指導要領が実施されること、評価の在り方について重要視されていることなどから、昨年度までの「分かって動けて、かかわって～児童生徒に向き合って適切な支援を行い、自己有用感を高める～」をベースとしつつ、上記研修主題を設定し、研修を進めることとした。

(2) 児童生徒の実態から

当校の児童生徒は、それぞれの障害特性から、興味・関心がないものに対して取り組むことが難しい児童生徒が多い。逆に、興味・関心を引き出すことができれば、「やってみたい、もっとやりたい。」と意欲に繋げることができる。また、児童生徒の興味・関心を引き出すことで、今までできなかったことにチャレンジしたり、継続して取り組んだりすることが可能になる。そして、チャレンジし、継続して取り組むことにより、できなかったことができるようになっていく。しかし、言葉だけ励ましてもできるようなにはならない。今までの研修で培ってきた数々の支援ツールや支援具、教師間の連携を行うことにより、私たちは児童生徒一人一人の「できた」を増やしていきたいと考えている。

(3) 新学習指導要領から

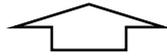
今年度から、小学部では新指導要領の完全実施である。学習指導要領に基づき教育課程を編成し、実施、評価し、再編していくカリキュラムマネジメントが欠かせない。また、目指す資質能力に向けて指導内容を検討し（何を学ぶか）、単元を構成し（どのように学ぶか）、「児童生徒一人一人の発達や障害特性を把握した目標設定を行う必要がある。そして、3つの観点「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性」に沿った評価を適切に行うことが求められている。（「文部科学省HP 教育 学習指導要領」より引用）



そこで、今年度は副題にある「目標設定」と「評価」に焦点を当てて研修を進めることとした。

2 めざす児童生徒の姿

グランドデザイン 指導の重点より
一人一人の「できる力」を見つけ、伸ばし、生活に生かす



- わかった、できたと感じる（知識・技能）
- どうしたらできるようになるか考える。（思考力、判断力、表現力など）
- やってみたいという好奇心がある。
もっとやりたい、またやりたいと思う。（興味・関心）

Ⅲ 研修内容

1 授業のPDCAサイクルを意識して、授業改善に努める。

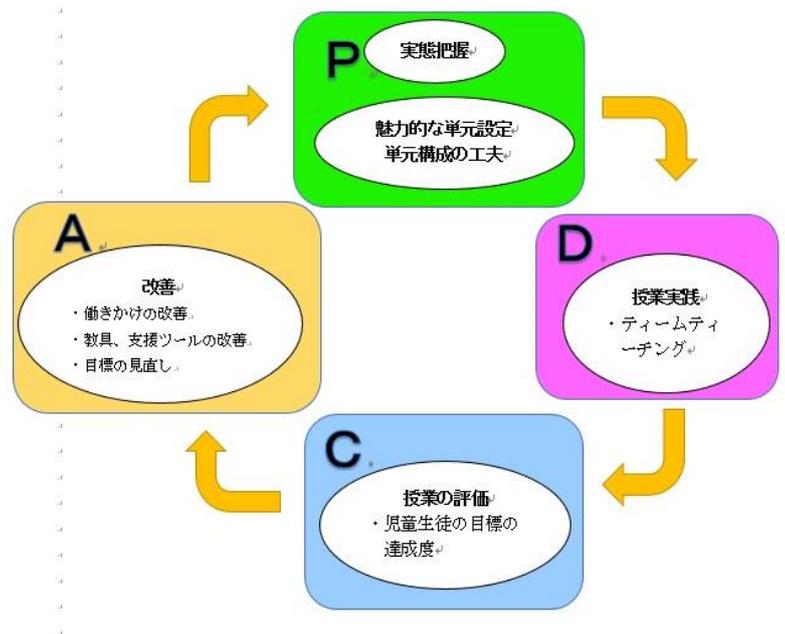
(1) P（プラン）

学習指導要領の目標、内容、段階を確認し、児童生徒の実態把握を行い、単元の指導計画や単元の構成を工夫し、魅力的な単元を作成する。

(2) D（ドゥ）

昨年度までの「わかって動いて、かかわって」で取り組んできた物理的支援や人的支援を行い、(1)のプランで描いた授業を実践する。

授業のPDCAサイクル



(3) C (チェック)

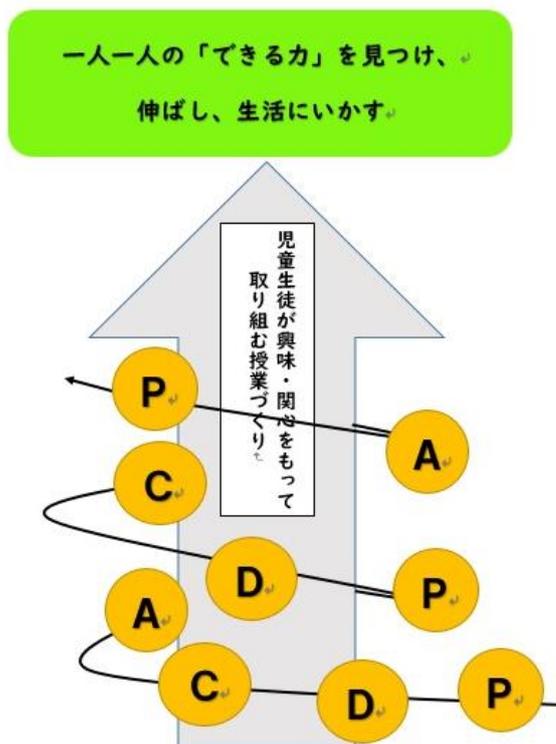
プランで設定した個人の目標に対して評価を行う。評価規準を設定しておき、いつ、誰が、どのように評価を行うのか決めておく。

(4) A (アクション)

目標設定は妥当であったか、手立てや支援はどうであったか、評価の仕方かどうか等、A～Cまでの流れを総合的に見直し、改善策を立てる。

(5) PDCAサイクルの流れ

PDCAは、1～2回行えばよいのではなく、単元が終わるまで続く。また、目標も評価も少しずつ変わり、らせん階段を昇るように、実践を繰り返すことで、単元終了後の目指す姿に近づけて行くことになる。すべての教科、すべての単元でこれを繰り返すことにより、目指す姿に近づけるようにしていく。



2 目標設定について

目標には、単元の目標、1時間の授業の目標、個人の目標がある。

単元の目標は、学習指導要領の目標と内容、当校の年間指導計画にある目標、そして、児童生徒の実態を把握した上で設定を行う。単元の目標は、単元終了時点で達成していればよいものである。児童生徒の実態が異なるため、個々の単元の目標も必要となってくる。

単元の目標を達成するために、単元の指導計画と共に1～2時間ごとの授業の目標を設定する。児童生徒の実態が異なるため、授業の目標も一人一人異なってくる。児童生徒にふさわしい目標が設定できたかどうかを検討していく。

<例>

単元名 ランニング・ウォーキングをしよう (10時間)
 単元の目標 教師と一緒に走ったり、歩いたりすることで、体力を高めることができる。

1～2 (時)	3～9	10
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 授業の目標 コースを覚え、自分に合った距離を選ぶ。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Aさん 500Mコースを歩く。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Bさん 800Mコースを走る。 </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 授業の目標 自分の目標タイムを考え、目標に向けて練習をする。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Aさん 500Mを5分で歩く。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Bさん 800Mを2分で走る。 </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 授業の目標 どんなどころをがんばったか発表会をする。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Aさん 大股で歩けたことを写真で見せる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> Bさん 腕を大きく振って走ったら、新記録がでたことを話す。 </div> </div>

3 評価について

評価は、児童生徒一人一人の毎時間の評価と単元終了後の評価がある。授業1時間ごとに評価をするのが難しい場合は、2～3時間に1回程度行う。評価を行うために、評価規準を設定し、ABC評価を行う。評価規準は一人一人異なる。

また、評価をいつ、どのような方法で行うのか、評価がCの場合やはるか大きくAを超えていた場合は、目標が児童生徒の実態に合っていたのか、手立てはどうだったか、支援ツール等、環境設定はどうであったか等検討を行う。そして、次時の授業に向けて改善（アクション）を図る必要が出てくる。

<例>

1～2	3～9	10
<p>授業の目標 コースを覚え、自分に合った距離を選ぶ。</p>	<p>授業の目標 自分の目標タイムを考え、目標に向けて練習をする。</p>	<p>授業の目標 どんなところをがんばったか発表会をする。</p>
<p>Aさん 500Mコースを歩く。</p> <p>Bさん 800Mコースを走る。</p>	<p>Aさん 500Mを5分で歩く。</p> <p>Bさん 800Mを2分で走る。</p>	<p>Aさん 大股で歩けたことを写真で見せる。</p> <p>Bさん 腕を大きく振って走ったら、新記録ができたことを話す。</p>
<p>評価規準 A－500Mコースを選ぶ。 C－参加しない。</p>	<p>評価規準 A－500Mを5分以内で歩く。 C－参加しない。</p>	<p>評価規準 A－写真を見せる C－参加しない</p>

<単元終了後のAさんの評価>

知識・技能	A ・7時間のうち、500M歩いた回数が4回だった。
思考力・判断力・表現力	B ・自分の目標タイムを選べなかった。(C) ・発表会でみんなの前で写真を見せることができた。(A)
意欲・関心	A ・大股で歩くことを意識して歩こうとしていた。

IV 研修方法

1 授業プランシートを使用し、適切な目標設定を行う。(P.9資料1を参照)

PDCAサイクルのP（プラン）に当たるものである。

- 児童生徒の実態把握
- 単元について
- 学習環境・教具について
- 単元目標の設定
- 単元計画について
- 1時間の授業の流れについて

この6つの内容について、事前に情報を収集したり、考えを練ったりして授業の準備を行う。授業プランシートにチェック欄があるため、準備に漏れがないよう、シートを活用する。

2 授業振り返りシートを使用し、評価を行う。(P.10 資料2を参照)

P D C AサイクルのC (チェック) とA (アクション) に当たるものである。どの児童生徒を担当するかを、MTとSTで事前に決めておく。児童生徒1人について1枚の振り返りシートを用意し、個別の目標の達成状況を評価規準に沿って評価をしていく。また、授業の目標から「できたこと」「できなかったこと」「しなかったこと」、教師の手立てに対する児童生徒の反応、子ども同士の関わり、教材に対しての反応、振り返り場面での自己評価やつぶやき等を記録していく。可能であれば、授業中に記録を行う。難しい場合は、授業終了後に記録を行う。

授業終了後、または放課後に、MTとSTが集まり、授業中の様子や評価を共有し、次時への改善策を検討する。それを単元が終了するまで行う。当然、目標と評価は少しずつ変化していくはずである。単元の終末に近づいた時点で、単元全体の目標が達成できるようにする。

3 掲示物の使用

毎時間の授業において、目標設定と評価を意識できるように、掲示物を使用することを心掛ける。また、学部が変わった際に児童生徒が混乱しないよう、全学部、全特別教室において同じ掲示物を使用する。目標は星(☆)マーク、評価は「ふりかえり」とし、研究推進部が作成、配付する。

4 全体研修について

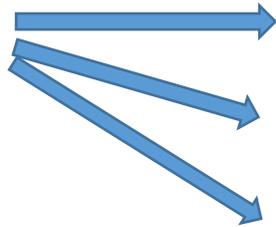
- (1) 今年度は高等部が秋に授業公開を行う。職員全員が参加する研修は1回のみとする。指導者を招聘し、研修の方向や授業について指導をしてもらう。指導案は細案とする。
- (2) 当日はビデオ視聴を行わず、授業を参観できるように事前に学級内で相談しておく。詳細は後日提案する。
- (3) 単元終了後、実践についてA4 1枚程度にまとめる。

5 一人一実践について

- (1) 全体研修を昨年度3回行ってきたものを1回とし、その分一人一実践を充実させていく。他学部の一人一実践の授業公開に1回以上参観する。管理職、教務主任、学部主事を除いた全教員が行う。
- (2) 6月～11月末日までに行う。11月に集中しないように、学部内で計画的に行う。学部主事と研推が中心となって日程調整を行い、学部内の一人一実践は1週間に1人までとする。他学部の職員が参観できるよう、日程を公開していく。
- (3) 授業プランシートを使用し、早目に授業の準備を始める。学部会や学年部会で授業公開の予定を伝え、必要に応じて児童生徒の実態把握に関する情報収集を行う。
- (4) 授業公開終了後の放課後にMTとSTが集まり、授業の振り返りを行う。そこに管理職、教務主任のうちの1人、学部主事、他学部の授業を参観した職員が気軽に参加し、目標設定や評価について意見交換をする。参加が難しい場合は付箋やメモを渡す。司会は学部主事が行い、振り返りの時間は30分以内とする。
- (5) 指導案はA4 1枚程度の略案とし、単元終了後、振り返りの時間に出た意見を基に目標設定と評価について考察する。
- (6) 中堅教諭研修(12年研)の授業者は校長から直接指導を受け、一人一実践に替える。協議会は中堅教諭研修のメンバーとSTが参加し、振り返りの時間を兼ねる。

<例>

自分(小学部)



全体研修 (高等部) 授業参観、協議

他学部(中学部)の授業参観、振り返りの時間に参加

自学級の一人一実践授業公開、振り返りの時間に参加

V 研修の年間予定

学期	期日	内容	その他
1 学期	4月16日	・校内研修の概要説明	
	5月25日	・指導者を招聘しての全体研修会 講師 上越教育大学 教授 村中智彦氏 内容「PDCA サイクル、目標設定と評価」	
	6月	一人一実践	
	7月		
夏季 休業	7月～8月	・1学期の年間指導計画の見直し	公開講座 (7/30) 市教協統一部会 南中学区を語り合う会 特別支援教育研修会 (8/21) 校内人権同和研修会
2 学期	9月 ～11月	・校内全体研修 高等部	一人一実践 人権教育同和教育研究会
	12月	・「一人一実践」終了→考察 ・研修のまとめ作成 ・2学期の年間指導計画の見直し	
3 学期	1月	・見附の学校教育原稿締め切り	
	2月	・研修のまとめ「みとくの教育」完成 ・3学期の年間指導計画の見直し	
	3月	・年間指導計画完成	

<参考文献>

- ・「知的障害教育ならではの主体的・対話的で深い学びができる本」神山努著 学研教育みらい
- ・大分大学附属特別支援学校HP 研究資料「授業構想チェックシート」「授業構想シート集」「振り返りシート集」